

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2570100632
法人名	有限会社 ミテラ
事業所名	洛和グループホーム大津
所在地	〒520-0046滋賀県大津市長等3丁目6-16 (電話) 077-511-4025

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年9月29日
評価確定日	平成21年11月12日

## 【情報提供票より】(平成21年 8月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	7 人
常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 2 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,677 円		

### (4) 利用者の概要( 8 月 10 日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2		5 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.8 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会音羽病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西国札所である三井寺駅を降りたち、数分の古い町屋が軒を連ねる一角に当該ホームがあります。医療や介護など幅広く地域ニーズの実現を展開する洛和会のグループホームです。ホームでは、職員の笑顔が利用者の安寧につながると思いが強く、ホーム理念に「つなげよう 笑顔と心と 地域の輪」と掲げ、職員は利用者との繋がりが育まれるよう努力されています。職員のチームワークも良く、ここ数年は離職者もありません。職員の教育にも力を入れ、法人始め各種研修に職員を派遣し、全職員が希望に沿った研修の受講が出来るように配慮されています。また受講者は必ず報告書を提出し、ホーム内での伝達研修を行うなどスキルアップを図り、質の向上を運営に反映されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、ホーム独自の理念が提案されており、キーワードとなる言葉を職員が日数を掛け集めて作り上げました。出来上がったホーム理念は、利用者が書にしたため絵を添えてリビングの入り口に掲げられており、皆の目にふれお互いに確認されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に当って、全職員で取り組む事を位置付け、非常勤職員も含めて項目を手分けし記入し職員管理者が共にチェックまとめて作り上げています。日々の取り組みの振り返りとなり、利用者への支援に役立っています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、二ヶ月に民生委員、地域包括支援センター職員、家族や時には利用者を交え行われています。ホームの行事の案内や報告、家族からの意見や相談などが出されたり意見の交換が行われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時には家族からの意見や相談を出来るだけ聞いており、出された意見は必要に応じて時にはカンファレンスで検討され、職員間で共有し家族に報告しています。年に回家族へのアンケートを取っており、詳細なアンケート結果を分析し報告しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧板で地域情報を得ており、老人会の行事等は公民館の掲示や運営推進会議で教えてもらい参加しています。琵琶湖一斉清掃が月に一度あり、時間的な事もあり職員が参加する事で地域貢献を果たし、中学校の課外事業の受け入れや、ボランティアの受け入れるなど利用者が、外の風を感じる機会を大切にされています。利用者は、洛和のメディカルフェスティバルの健康診断や大道芸などの出し物に近所の方々と共に参加し楽しんでいます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームにおける理念を、全職員がキーワードを出し合い思いを込めて作り上げている。「つなげよう笑顔と心と地域の輪」と謳い、利用者の安心につながると笑顔の支援を心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆で作上げた理念は、書や絵の上手な利用者の手で書きあげられ、タペストリーにしてリビングの横に掲げられている。職員をはじめ利用者、家族等来訪者の目にとまり、イベントや運営推進会議の席でも理念に沿った方向性が確認されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板から地域の情報を得ている。老人会の行事等は公民館の掲示や運営推進会議で情報を得て参加している。琵琶湖の一斉清掃に職員が参加したり、利用者はよく利用する近隣のお店で挨拶を交わし地域とのつながりを大切にしている。法人のメディカルフェスティバルには近所の方を招待し、利用者は作品を出品し交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、改善課題であったホーム独自の理念を職員が思いを込め、作り上げている。今回の自己評価は、全職員が項目を振り分け分担し、管理者がまとめて作成している。全員で取り組む事で、職員の日々の支援への振り返りになっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、時には利用者の出席を得て行われている。ホームの行事や状況報告を行い、家族からの相談事等意見交換の場となっている。自治会会長や市の職員にも呼びかけを行っており、参加者の増加に向けて努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に法人やホームとして市の担当者を訪問し、顔見知りの関係にある。市からの防災や利用状況などのアンケートに応じ、電話でやり取りするなど相互の連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月々にホームからの便りや健康記録、行事写真等を同封し送付されている。金銭管理についても出納帳のコピーと領収書を送付している。家族の来訪時にも日々の状況の報告や受診時の報告なども合わせて行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回アンケートを取り、意見や苦情を言う機会と位置付け、アンケート結果を詳細に分析、評価した報告書を家族に送付している。家族の来訪時などでも積極的に意見を聞きとるように心がけ、出された意見等はカンファレンスで検討し、結果を家族に返している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	数年間、法人内の異動のみで、退職者はいない状況である。職員が楽しく仕事する事が大切と考え、出来るだけ意見を出し合い話し合えるように心がけている。管理者は悩みや気になる事は無いか気を配り、個別に話を聞くなどの対応を行っている。新任の入職時には、ベテランの職員がついて、利用者にも早く馴染めるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画があり、外部からの研修情報を職員に知らせ、希望に沿った研修や、段階に応じてホームとしての受講を促すなど、全職員が受講の機会があるよう配慮されている。受講者は報告を行うと同時に、伝達研修を行い職員間で共有するシステムが構築されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者とのネットワークが地域包括支援センターの職員の協力のもとに発足しており、定期的な交流の機会がある。悩みや相談、意見交換などの交流がなされ、管理者、職員のみならず、他ホームの行事に利用者とは出かけるなどの相互訪問などが検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約に当っては、出来るだけ見学を勧めているが、自宅や入院先を訪問する事が多いのが現状である。管理者は自宅を訪問する事で、利用者の生活が視覚的にとらえられ入居後の生活に役立つと考えられている。入居後は、なるべく同じ職員が対応する事で馴染みの関わりが出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には知恵と知識の豊かさがあり、職員は何でも相談をしたり尋ねたりしながら、多くのことを利用者から学んでいる。また職員は利用者から仕事に対するねぎらいの言葉や、慰めの声かけをもらうことで癒され励みとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、家族や利用者にも記入をして頂くなど多くの情報を記録している。利用者の様子や会話の中などから追記し、要望の実現に努めケアプランに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望は記入用紙に記載してもらい、カンファレンス欠席者は事前に意見を提出し、職員全員の声を反映したケアプランの作成に努めている。利用者への24時間ケアシートを作成し、ケアプランと日々のケアの連動を図り、変化や特記をカンファレンスに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	初回は暫定プランを立て、1か月以内に見直し、その後は3か月毎に評価、モニタリングを行い、変化がなければ6か月毎にケアプランの更新を行っている。看護師や医師の意見をこまめに収集し、ケアプランに反映している。状態の変化には素早く対応し、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の個別の要望の実現を、年間計画を立てて実行している。家族とも相談しながら利用者と職員が一对一での外出を支援し、美術館やお寺、蒸気機関車を見に行ったり、昔住んでいたところへ出かけ近所だった人達と交流をするなど、様々な要望の実現に対応されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者や家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めており、継続して往診を受けている利用者もいる。協力医療機関から月に一度の往診があり、希望に沿って受診されている。ホームでは以前のかかりつけ医との連携もあり、訪問眼科や歯科の往診、看護師の訪問など、安心の医療体制がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの看取り指針について契約時に説明し、同意を得ている。重度化の過程で医師や看護師、家族の協力も含めた話し合いの上、看取りの方向性を検討している。職員間では指針の共有を図っており、看取への体制が出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時や入浴に際しても同性介助での対応をするなどの配慮している。日常的にも丁寧な言葉かけを心がけており、不適切な言葉かけが見受けられる時は直接注意をしたり、カンファレンス時に伝え、職員間で確認するようにしている。個人情報の書類は事務所の鍵のかかる書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床も利用者ごとに違い、何事も希望に沿って対応している。日中も利用者ごとに入浴や、外出など希望を聞きつつケアプランに沿った支援が出来るように工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と共に考え、食材を提案して頂くなどの協力を得ている。週3回注文した食材が届き、米を研いだり玉ねぎの皮むきなど、出来る事から手伝ってもらっている。出来上がった食事は、職員も共に頂き会話を弾ませている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大部分の利用者がお風呂が好きで、主には午後から夕方まで入浴できるように対応している。希望があればいつでも可能であるが、夜間については安全面から入浴対応は行っていない。毎日の入浴を希望される利用者や、毎月銭湯に出かけ入浴を楽しまれている利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を持って頂く事を大切に考えており、家族からの情報をもとに、料理やできる事に関わっていただいたりしている。男性の利用者でも野菜の皮むきや修理等をお願いする事で、存在感や達成感が味わえるよう支援に繋げている。また花を買いに出かけたり、編み物や裁縫など、利用者の好きな事を継続できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、時にはウインドウショッピングにと、出来るだけ出かける機会を見つけて支援している。年に一度個別ケアで、利用者の思いや希望の実現に向けた取り組みを行っている。職員と一対一で希望の場所に出かける事が利用者の大きな喜びに繋がっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアの実践をされており、出たいような素振りのある方には様子を見て話を聞き対応している。ホームが2階にあるため、入口にはチャイムを取りつけ安全面への配慮に努めている。家族には相談し納得頂き、職員は鍵を掛けないケアの理解と共に利用者の自由な暮らしの支援に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いのもと、デイサービスと合同の避難訓練を行っている。またホーム独自で、2ヶ月に一度様々な状況を想定した自主訓練を行っている。地域の防災訓練にも職員が参加し、運営推進会議で報告や協力依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し、水分管理の必要な方は水分摂取量を記録している。嚥下困難な利用者には水分にとろみを付けたり、状況によっては、ペーストやムース食にするなどの対応を行っている。栄養バランスは、職員が研修で習得したカロリー計算やバラエティーに富んだ食材を使うように工夫をし、検食簿によって確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物の改修型ホームで、窓が高く景色が見えにくいいため花やタペストリーを飾り、出来るだけ季節感が出るよう配慮されている。三方から光がさし込む明るいリビングには、ソファを置き、広い屋上では野菜や花を栽培し、水やりをされたり、お茶を楽しめるなど、利用者は思い思いの場所で寛ぐことが出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはクローゼットが備え付けられており、衣服の入れ替え等の空間が確保されている。利用者は古い箆箆や使い慣れた椅子などを持参され、人形や写真思い出の品に囲まれ生活されている。また、皆で作ったビーズ絵が額に入れ飾られて、ホームでの生活の思い出となっている。		